慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	NBAの新人選手若年化が提起するチーム及び選手への問題
Sub Title	
Author	小谷, 太郎(Kotani, Tarou) 姉川, 知史
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2007
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2007年度経営学 第2223号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002007-2223

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	姉川知史研究会	学籍番号	80630405	氏名	小谷太郎

（論文題名）

NBA の新人選手若年化が提起するチーム及び選手への問題

（内容の要旨）

1990 年代中ごろから NBA デビューを果たす新人選手がそれまで大卒の選手が主流であったが、大学を中退、あるいは高校卒業と同時にプロ入りをするアーリーエントリー選手が増えていった。また同じ時期に目立っていたのが新人選手の年俸の高騰である。若年化し、アマチュア経験が短い選手が大量にプロデビューし、さらに彼らの年俸は当時のベテラン選手と比較をしても非常に高い水準にあった。

新人選手の若年化から、これまで即戦力とみられたドラフト上位選手も投資の側面が強くなり、本来ドラフトが担うべき役割を果たせなくなりドラフトがブラックボックス化していることが窺える。こうした状況を打破するため NBA は新人選手の高額契約を抑制するルーキーサラリーキャップを導入し、ドラフトのブラックボックス化に歯止めをかけようとした。

本論文では、こうした新人選手の若年化が球団や選手にとって本当に問題であるか否かを分析し、また NBA がとった措置が妥当なものであるのかという点についても検討する。